

令和3年度学校評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 多様な生育歴・学習歴を持つ生徒に社会で自立できる学力と社会性を身につけさせるとともに、教育活動全体を通して自己有用感や自己肯定感を育成し、進路希望の実現を支援する。
- (2) わかる喜び、学ぶ楽しさを持たせる授業、他を思いやり助け合える集団づくりを目指した生徒指導、逞しく健やかな身体を作る健康安全指導の三位一体の教育活動を推進する。
- (3) 生徒理解に基づく教育相談(ガイダンス機能・カウンセリング機能)を充実させる。
- (4) 学校の教育活動に関する情報の効果的な発信に努め、選ばれる学校づくりを進める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
総 務	・各分掌や担当者と連携を図り、概ね円滑な学校運営を行うことができた。全日制との連絡調整についてはより綿密に行う。 ・学校ホームページのリニューアルを行いスマートフォンでも見やすいようにした。 - また、毎月1回以上の更新頻度で運営できた。	・受検者が少なかったが、その要因を分析し次年度の生徒募集に活かして欲しい。 ・学校ホームページは、受検生や保護者はもとより、地域住民等にとっても重要な情報源となることから、一層の積極的な情報発信をお願いする。
改善方策	・職員の協働体制の充実と全定の一層の連携を図り、円滑な学校運営に努める。 ・学校ホームページについては、毎年運営全般についての見直しを図り、本校定時制のPRに繋がるよう積極的な情報発信に努める。	
学習指導	・新教育課程や観点別評価、学校併修の在り方等次年度の実施に向け再確認を行った。また、学習評価表のデータ化、規程の整備を行うことができた。 ・BYODの活用に向け、環境整備や研修会等を実施し、次年度に向けて取り組んだ。	・生徒の理解定着を図るための有効な手立てや指導方法について、よく工夫して取り組んでいる。家庭学習の習慣化に繋がる学習指導の充実に一層努めて欲しい。 ・BYODの有効活用をお願いしたい。
改善方策	・生徒の理解定着を図る有効な手立てや個別指導方法に関する情報交換、各種研修会への参加など研修の充実を図り授業改善に努める。 ・BYODやネットワークの活用について、全日制と連携を図りながら推進する。	
生徒指導	・「絆づくりメッセージコンクール」への参加、命の大切さを学ぶ教室などを通じ、命や人権を重んじる態度を学ぶことができた。 ・生徒会行事は、コロナ禍の対応となったが、生徒会執行部が中心となり、在校生の協力のもと温かさを感じる行事が多かった。	・落ち着いた学習環境が実現できている。今後も、指導の充実をお願いしたい。 ・コロナウイルス感染症に対して、様々な感染防止対策を徹底していることと思うが、今後も給食の喫食時等を重点的に徹底した対策を引き続きお願いしたい。
改善方策	・生徒に共感する姿勢と生徒理解を大切に、自己肯定感を育む教育活動を推進する。 ・生徒が互いに協力し合う雰囲気づくりを継続し、スムーズな準備、進行を指導する。	
進路指導	・キャリアパスポートの活用について、生徒の記入状況はよかったが、記入後の教員側の対応についての確認が必要だった。 ・進路のしおりについて、1, 2と3, 4年生に分けて発行、それぞれ有効に活用できた。	・キャリアパスポートや進路のしおりを有効活用し、キャリア教育の一層の充実をお願いしたい。 ・就労支援が必要な生徒には、関係機関との連携を図り実施をお願いしたい。
改善方策	・キャリアパスポートと進路のしおりとの整合性を考えながら内容の改善を図る。 ・キャリアカウンセリングや適性を知る機会を充実させ、指導の充実を図る。	
公表方法	・学校だよりやWebページに掲載するとともに、学校評議員会、PTA役員会で口頭にて説明する。	